

受講生のみなさんへ

今回のサマースクールで使用するテキストの一覧です。

- 1 『先哲叢談』
江戸の学者の逸話集『先哲叢談』より荻生徂徠の條を読みながら、漢文訓読の原理と読解法について解説します。
- 2 『論語』 訓点
朱子『論語集注』に施された江戸時代初期の代表的な訓点である文之点を取り上げ、江戸時代の訓点や訓点の思想的背景について解説します。
- 3 『西航記』
福澤諭吉が漢文訓読体で書いた幕末の海外渡航記です。日本出発前後とイギリス滞在部分を読みます。
- 4 『唐詩選國字解』
荻生徂徠門弟の服部南郭による李攀竜 (li pan long) 『唐詩選』の講義録です。なお、ここで扱う唐詩の作品は、以下のとおり、7 『寝惚文集先生』『理不盡通詩選笑知』で取り上げる狂詩と対応します。また、参考資料として江戸刊本『唐詩選』も併せてアップしています。

『唐詩選国字解』

古詩

杜甫 貧交行

五言絶句

駱賓王 易水送別

李白 秋浦歌

独坐敬亭山

王維 臨高台

鹿柴

孟浩然 春暁

韋応物 秋夜寄丘二十二員外

『寝惚先生文集』

詩 貧食行 (杜甫 貧交行)

序 送桃太郎序

『通詩選笑知』

楽貧翁 侷粹惚別 (駱賓王 易水送別) * 『和漢草』

小酌 祝儀歌 (李白 秋浦歌)

独坐閨中 (独座敬亭山)

王維坐 貧困台 (王維 臨高台)
筑齋 (鹿柴)
直利簡 (竹里館) * 『和漢草』

孟今年 春前 (孟浩然 春暁)

至大物 祝夜寄嫁二十二三位 (韋応物 秋夜寄丘二十二員外) * 『和漢草』

5 『女論語』

立身章第一を読みます。漢籍の『女論語』と和文の『本朝女論語』とで両者がどのように対応するか、またはそれぞれどのような特徴があるかを考えてみたいと思います。

6 『遊子方言』叙

洒落本『遊子方言』は田舎老人多田翁の作。1770年(明和7)刊。漢籍『揚子方言』のもじりで、作者は書肆丹波屋利兵衛といわれています。

7 『寝惚文集先生』『理不盡通詩選笑知』

『寝惚文集先生』は、太田南畝が19歳で著した狂詩集で、平賀源内が序文を寄せ、江戸の狂歌ブームのきっかけを作ったと言われています。同じく、南畝による『理不盡通詩選笑知』は、『唐詩選』のパロディ狂詩とその戯注からなる狂詩集です。

8 『横浜繁昌記』

幕末の洋学者、柳川春三の作。作者は尾張藩に生まれ、1864年(元治1)、幕府の洋学教育研究機関である開成所の教授となった人物です。

9 『古今茶道全書』叙

江戸時代の和文文献の多くには漢文の序文が付されています。和文文献であるのに、なぜ漢文序文があるのか。このことについて考えてみたいと思います。

10 能書「眞方人參長壽圓」叙

薬の効能などの説明を書き記したものです。現代日本語で「能書きを言うな」という言い方があります。この序文を読むとこの言い方の語源がわかるでしょう。

予習教材を読んだ後、テキストを眺めてみてください。そして、読めるかなと思ったら、少しでも良いので漢和辞典を使いながら読んでみてください。漢文訓読の習得は予習が最良の学習方法です。

また、今回のセミナーでは漢和辞典の用意をしていますが、できれば普段使い慣れた漢和辞典を持参してください。ただし、江戸の漢文を読む際には電子辞書の漢和辞典は役に立たないことをお忘れなく。

2014/07/30 最終更新